



三重県明和町

第三十七回

斎王まつり

新しい歴史のはじまり



6月 **1** **土** (雨天の場合中止)

上園芝生広場

禊の儀 15時30分～16時

斎宮歴史博物館会場

斎王市 15時～21時

前夜祭 17時～21時

特別ゲスト/伊勢シンフォニックバンド
開会式・改元記念「大来皇女物語」・斎王他出演者披露

6月 **2** **日** (雨天の場合中止)

出発式・斎王群行・社頭の儀

13時～15時頃 さいくう平安の杜～上園芝生広場～斎宮歴史博物館

斎王市・アトラクション

10時～15時 斎宮歴史博物館会場

配役

齋王 さいおう



橋本 茉奈
(大紀町)

子供齋王



飛矢地 愛結
(松阪市)

女別当 にょべつどう



北岡 奈々
(松阪市)

内侍 ないし



馬場 彩華
(熊野市)



勢田 涼子
(神戸市)



有馬 日菜
(明和町)



大場 麗央奈
(川崎市)

采女 うねめ



山本 由佳
(志摩市)



Alexandra Amanda Hemp
(明和町)



伊藤 里華
(四日市市)



笈田 彩代
(京都市)



種井 ひろ美
(名古屋市)

命婦 みょうぶ



澤村 梨乃
(明和町)



目島 光
(堺市)



樋口 葵
(鈴鹿市)



佐藤 由美子
(川口市)



玉津 由梨
(伊勢市)

女孺 にょじゆ



藤本 紋
(伊賀市)



西井 香琳
(志摩市)



櫻井 綾乃
(津市)



久米 玲子
(豊橋市)

近衛使 このえつかい



小林 明希子
(四日市市)

風流傘 ふうりゅうがさ



畑中 秀幸
(津市)

齋宮十二司官人



辻 泰
(鈴鹿市)

検非違使 けびいし



佐藤 彩希
(ふじみ野市)

舞人 まいびと



ファン ティ ニュン
(ハノイ)

舞人 まいびと



森田 めぐみ
(松阪市)

検非違使 けびいし



中村 幸美
(明和町)

舞人 まいびと



池田 梨夢
(津市)

舞人 まいびと



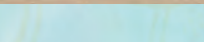
ドーティー ゴック ジェン
(ホーチミン)

舞人 まいびと



グェン ティ テュイ ユーン
(ホーチミン)

舞人 まいびと



チュン ティ ミー
(ホーチミン)

舞人 まいびと



ホアン ティ レー
(ハノイ)

舞人 まいびと



坂谷 有絵
(伊勢市)

舞人 まいびと

前田 宗志
(明和町)

舞人 まいびと

桐山 卓也
(津市)

舞人 まいびと

山本 泰広
(松阪市)

協力参加
皇學館大学
雅楽部の皆さん



第三十七回 齋王まつりを迎えて

令和元年 六月一日・二日 令和という新元号のもと初めて開催される「齋王まつり」となります。本来、新天皇が即位された時などに、新しく「齋王」が選ばれ、新齋王が都から伊勢（齋宮）へと下向（群行）されます。

令和元年 新齋王（第35代 橋本茉奈齋王）を中心に「齋王まつり」が、華々しく開催されます。改元イベントとして「大来皇女」を企画しました。これは、齋宮跡発掘調査で第195次調査において飛鳥時代の宮殿跡が確認できたことから、初心に帰るという意味も含め初代齋王「大来皇女」をしのんで企画したもので、前夜祭のコーナーで紹介いたします。

また、まつりのさらなる向上を求めて「所作・振る舞い」（歩く・曲がる・座る）など基本動作を、安永まrico氏にご指導いただき、第三十七回 齋王まつりを、より質の高いまつりに仕上げてまいりました。

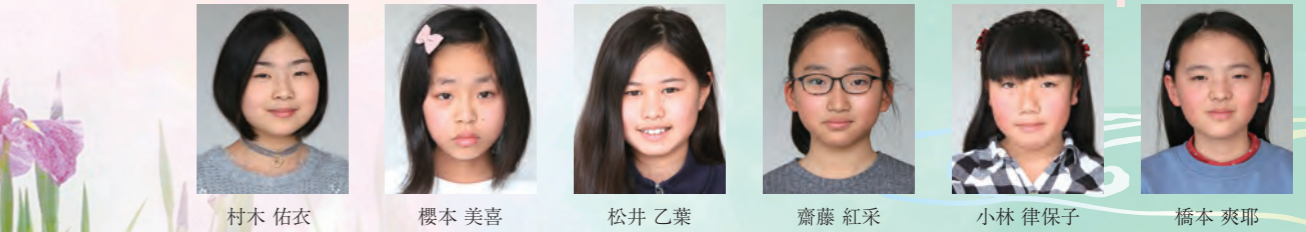
齋王まつり実行委員会は、すべてがボランティアの実行委員で運営されております。

また、齋王まつりOG会・小町のみなさんには重要な役割を担っていただき、欠かせない存在です。

みんなで力を合わせ作り上げる、記念すべき令和元年 第三十七回 齋王まつりを、ご期待ください。

齋王まつり実行委員会 広報班

童・童女 出演者 (順不同)



水千

あこめ

6/2 (日) (雨天中止) 6/1 (土) (雨天中止)

齋王市
15時〜21時
齋宮歴史博物館会場

禊の儀
15時30分〜16時
上園芝生広場

前夜祭
17時〜21時
齋宮歴史博物館会場
開会式
改元記念「大来皇女物語」
齋王他出演者披露

齋王市
アトラクション
10時〜15時
齋宮歴史博物館会場

出発式
13時〜
さいくう平安の杜
協力参加
皇學館大学雅楽部

齋王群行
13時50分〜
さいくう平安の杜から
齋宮歴史博物館会場まで

社頭の儀
14時50分〜
齋宮歴史博物館会場まで

もくじ

- 齋王まつり配役…………… 2
- 齋王まつり童・童女出演者…………… 4
- 大来皇女はどこにいた？
～齋宮に来るまで～…………… 6
- 齋宮歴史博物館の紹介…………… 8
- 齋宮跡の発掘調査…………… 10
- いつきのみや歴史体験館…………… 12
- 伊勢シンフォニックバンド紹介…………… 13
- 齋王一覧…………… 14
- 新しい歴史のはじまり…………… 15
- 図書の紹介 / 実行委員会組織体制…………… 16
- 齋王まつり実行委員会活動…………… 17
- 群行衣裳…………… 18
- フォトコンテスト…………… 20
- 齋王役を務めて…………… 22



大来皇女はどーにいた？

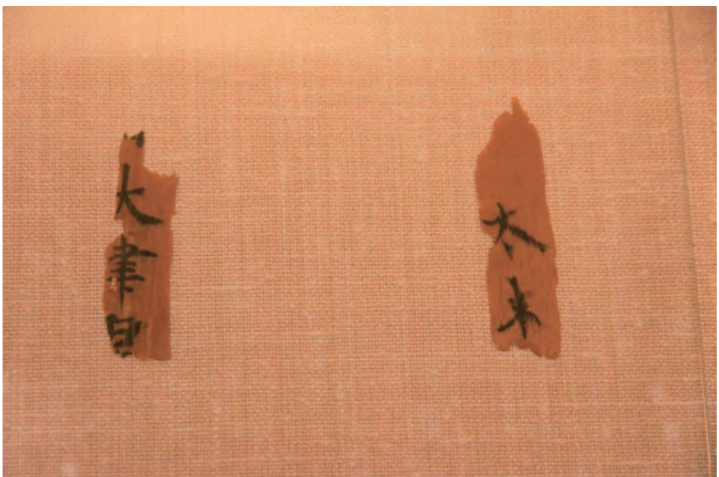
～齋宮に来るまで～

齋宮歴史博物館

学芸普及課長

榎村 寛之

博物館の展示室Ⅱにこんな資料があります。
「太来」と書かれた木くず。これは飛鳥京で見つかった膨大な木簡削りくず（木の札を転用するために、そこに書いた字の部分だけを削ったくず）の中の一点の複製品です。



「太来」木簡の削りくず複製（右）

この「太来」とは、実在の確実な最初の斎王と言われる大来皇女の名前なのです。大来皇女は天武天皇の娘で、母は天武の兄、天智天皇の娘の大田皇女、つまり叔父と姪の結婚という、きわめて近い関係の下に生まれた特別の皇女でした。時の帝の斉明天皇から見れば、息子（天武）と孫（大田）の結婚で生まれた、孫で、かつ曾孫ということになります。すでに何度も書いてきましたが、大来皇女は特別な皇女として生まれました。『日本書紀』には、その生年月日が書かれていて、誕生日が斉明天皇七年（六六一）一月八日だとわかっているのですが、こんな皇族は大来ただ一人で、天智や天武でさえ誕生日は記されていません。その中でわざわざ彼女の誕生日が記録されているのは、それが一種の記念日だったからなのでしょう。誰にとつての？それは斉明天皇にとつてのだと思われれます。斉明天皇はこの時、滅ばされた百済の王族を立てて、朝鮮半島で新羅・唐の連合軍と戦うため、その前衛拠点である筑紫に向かっています。大来

はその途上、吉備（岡山県）の邑久浦で生まれたので「おおく」と名付けられたのです。ところがその後、天皇は筑紫朝倉宮で亡くなります。そして彼女の陵墓には娘の間人皇女（孝徳天皇の後）と一緒に葬られ、その前に大田皇女の墓が設けられ、天智の母、同母妹、娘が同じところに葬られたとされています。斉明にとつても天智にとつても、大田が特別な孫娘だったことはここからもうかがえます。大来誕生の記録には、その特別な孫娘が産んだ最初の子が女の子だった、という女帝の喜びが隠されているのではないかと思います。このように、大来は吉備の生まれで、筑紫で幼少期を過ごしました。さて、大来は、その弟の大津皇子とともに、もしかしたら女帝になるかもしれない皇女として、天智朝でも特別に扱われていたと考えられます。事実、大津は天智の後継者とみなされていた大友皇子とともに、日本最古の漢詩集『懷風藻』の最初の方に名前が見られる詩人であり、その教養は大

友とともに天智の近江朝廷で培われたものと考えられます。とすれば天智によって飛鳥から遷都した近江大津宮で育てられていたとしても不思議ではなく、「大津」という名も「大津宮」に由来したものと見ることもできます。そして姉の大来も同様に、一瞬飛鳥京に戻った後、母のいない少女時代を天智の移した都である大津で過ごしたと見られます。ところが祖父である天智の死によって、六七二年に大来の運命は大きく転換を始めます。天智の亡くなる直前、大来の父、大海人皇子（つまり、後の天武天皇）は近江を離れ吉野に隠棲と称して引きこもりま

海人の旗揚げの後に大津京から合流してくるので、鶴野以外の女性が産んだ皇子女は、大津に残っていたと考えるのが妥当なようです。しかし、大海人が吉野を離れたというニュースが大津に届けば、その子女は身柄を拘束されるのが普通だと思えるので、高市と大津は、大海人が吉野を脱出する時に遭わした大分君恵尺（大海人に仕えた舎人のようです。三年後に病没しますが、その直前に外小紫という高位に叙せられています。）とともに伊勢に下つたとして

要は極秘に大津京に伝えられていたのではないのでしょうか。だとすればその連絡先は長男の高市の可能性が高いと思います。大津京には長女の十市皇女もいますが、彼女は大友皇子の後です。彼女は後世に、鮎の腹に手紙を忍ばせ、父に内応したという伝説が語られますが、実際にはそれは難しいでしょう。おそらく高市は先に近江から伊勢への道も調べており、恵尺からの連絡に応じて天武の子弟とともに大津京を離れ、

「辛巳年」「伊勢」と書かれた木簡削りくずも出土しています。じつは大来は『日本書紀』と『万葉集』の一部に見られる書き方で、「大伯」の方が古い書き方の方です。という所から、この木簡削りくずは『日本書紀』の編纂と関係があり、さらに伊勢・大津・大来を結びつけて考える見解もあります。しかし辛巳年は六八一年で天武天皇の治世半ば、壬申の乱や大津皇子が死を賜った事件と結びつけるのも難しいように思います。あるいは六八一年には「天社地社の

泊瀬朝倉宮、欽明天皇の行宮の泊瀬列城宮と泊瀬齋宮が重なっているのではないかと見られ、「日本書紀」によると、雄略・欽明天皇はともに娘を伊勢の神にささげたいとされる天皇です。そして翌年、大来皇女は伊勢に旅立つのです。こうして、大来は、吉備から九州へ、そして大津から飛鳥へ、さらに泊瀬を経て伊勢へとやってきたのです。改めて見ると、よく動いた人生だったことがわかります。そしてこの頃の齋宮ではないか、という可能性を秘めた初期齋宮が、今、齋宮跡で発見されつつあります。今年はどうなことがわかるのでしょうか。

ます。恵尺は大海人から「もし駅鈴を拒絶されたら近江に向かい、高市・大津皇子を呼び出して伊勢で本隊と合流すること」と命じられていましたが、当然高坂王からは大津京に早馬が飛ばされたことでしょう。あとは時間との勝負です。そして詳しい経緯はわかりませんが、2日後、恵尺と大津は伊勢国朝明迹太川の畔で「天照大神」を拜んだ直後の大海人と合流します。一方、高市はその前日に、積殖の山口、つまり伊賀市柘植のあたりで合流していました。

もう一つは、実は高市と大津を除く大海人の子女はみんな吉野に来て、一緒に伊勢に向かっていたのを『日本書紀』がわざと鶴野だけに書き換えた、という可能性です。しかし、さすがにそれだけの数の皇族が動くのは少し目立ちすぎると思いますし、そもそも天武の吉野行が出家遁世とは思ってもらえなくなるでしょう。吉野に付いてきたとすれば鶴野の子の草壁皇子と、あとは『日本書紀』に名前が出てくる忍壁皇子

と。ところが都に帰った彼女には大きな任務が待っていました。そう、六七三年の「天照大神宮」への奉仕です。そのためにまず「泊瀬齋宮」に入ります。この宮殿は、現在近鉄長谷寺駅近くで発見されている奈良県桜井市の「脇本遺跡」ではないかと思われています。大きな掘立柱の建物や扉が見つかっています。この遺跡は雄略天皇の

大来皇女についてもっと知りたい方は、今秋十月から十一月に齋宮歴史博物館で行われます、齋宮歴史博物館開館三十周年、国史跡齋宮跡指定四十周年特別展『東雲の齋王 大来皇女と壬申の乱』にGO！

測。もともと大海人から、旗揚げの計画の概

土した飛鳥京跡の現場では、「大津皇」

見つかっています。この遺跡は雄略天皇の



齋王の旅立ち

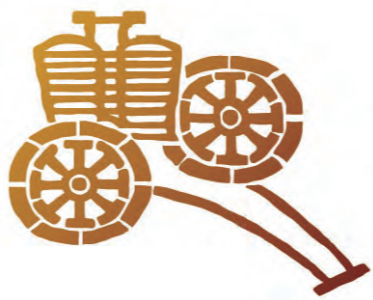


都を出る齋王

平安時代には齋王は深夜に京を離れ翌朝、最初の宿泊地（頓宮）に入る。
 齋王の伊勢への旅には、天皇の使者や、齋宮で使える男女の官人以下、あわせて数百人の人々が従った。
 この大行列を平安時代には「群行」といい九世紀後半には京から近江の国を経て伊勢国に入る道が確定している。

齋王制度の成立

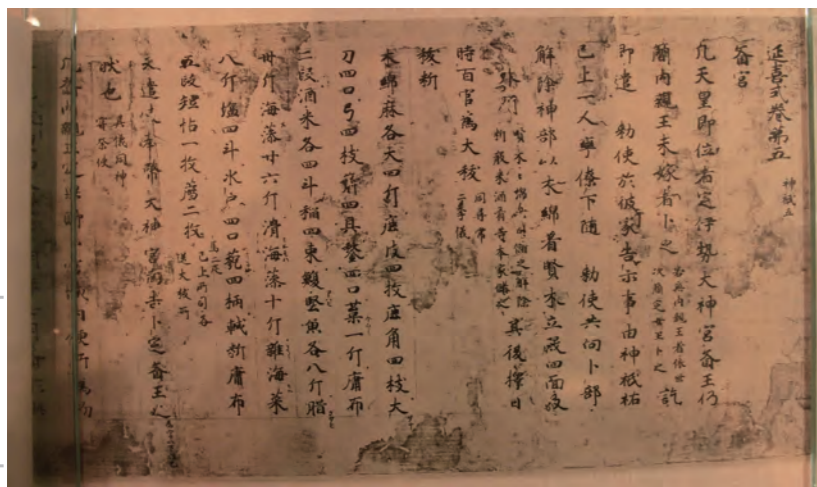
新しい天皇が位につくと、位を譲るか亡くなるまで、一人の齋王が伊勢神宮に仕える。
 この形が定まったのは、七世紀の末、日本に最初の法律を持った国家（律令国家）が出来た頃ではないかとみられている。
 たしかに最初の齋王は天武天皇の娘、大来皇女で齋宮の最も古い遺跡もこの時期のものである。
 齋王に仕える役所「齋宮寮」の八世紀前半にはできたものと考えられている。



蹄脚硯（脚部）

延喜式（齋宮式）

法律をじつさいに動かすといろいろと例外がおこるので対策が必要となる。
 古代の法律「律令」でも同じでそのために「式」という追加の法が作られた。
 「延喜式」ではそれらをまとめた十世紀の法令集で、齋宮についてのまとまった法がはじめて見られる。



国史跡齋宮跡の発掘調査

（飛鳥時代齋宮の実態解明へ）

国史跡齋宮跡では、齋宮歴史博物館が中心となり、地元住民や明和町の協力のもと、一九七〇年から実態解明のための発掘調査を続けてきました。特に史跡東部で、京都の平安京のような基盤目状の道路をもつ方格地割を発見して以降、その周囲の重点的な調査が続けてきました。それにより、齋王が生活を行う宮殿や、齋宮の役所である齋宮寮の役人たちが働いたくさんの平安時代の建物がみつかりました。そして平成二七年には、齋宮寮の中枢である寮庁の三棟の建物を復元した史跡公園「さいくう平安の杜」が完成し、平安時代の齋宮の解明は一定の成果を得

ました。一方で、平安時代よりも古い時代、この地に齋宮が置かれるようになったとされる飛鳥時代（七世紀後半）の齋宮については、史跡西部の中垣内地区にその中心があるとされてきました。平成二年度の第八五―八次調査で発見された一列の塀がその片鱗を示すものですが、部分的なもので、実態はほとんどわかっていませんでした。しかし、平成三〇年度の発掘調査では、この飛鳥時代の中心部の一部を解明することができ、さらにこれまで齋宮の発掘調査ではみ

まず夏頃に行った第一九三次調査では、これまで西側の一列しかみつかっていなかった飛鳥時代の掘立柱塀の北東コーナーを確認することができました。これにより、飛鳥時代の区画が東西約四〇メートル、南北五〇メートル以上あることがわかりました。この区画は、平面形が都のような正方位で配置されておらず、北から東に約三三度傾く特徴をもっています。全国の奈良時代の地方官衙遺跡が正方位で配置されていることから、この齋宮の区画が、奈良時代よりも以前に置かれた可能性が高いことを示しています。

これらの倉庫群は、第一九三次調査で確認された区画と方位を揃えて配置されていることから、同時に存在していた可能性が極めて高いのです。つまりこれら倉庫群は、飛鳥時代齋宮の倉院のような性格をもっていたと考えられます。以上が、平成三〇年度の発掘調査成果ですが、これら七世紀後半の考古学的成果を歴史的事象と関連付けると、六七四年に天武天皇の娘、大来皇女が初瀬の齋宮から伊勢神宮に向かうとする『日本書紀』の記述を無視することはできません。制度上最初の齋王とされる大来皇女、彼女がいた齋宮が、今回みつかった区画であった可能性は、今後、区画内部の発掘調査が進むことで、より高い精度で検討することができるようになります。



第2図 中垣内地区の解明状況



写真1 平成30年度の発掘調査位置（南東から）

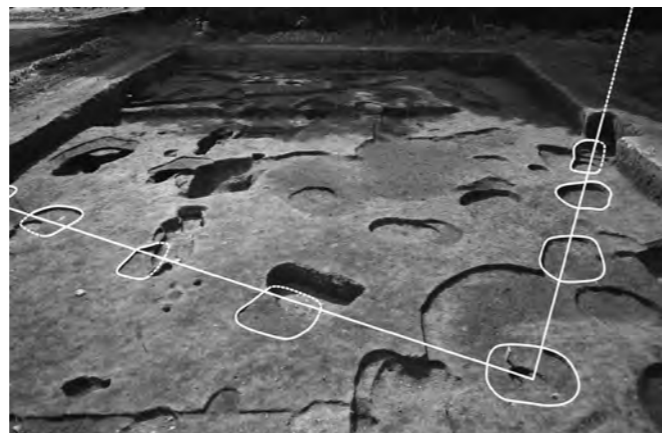
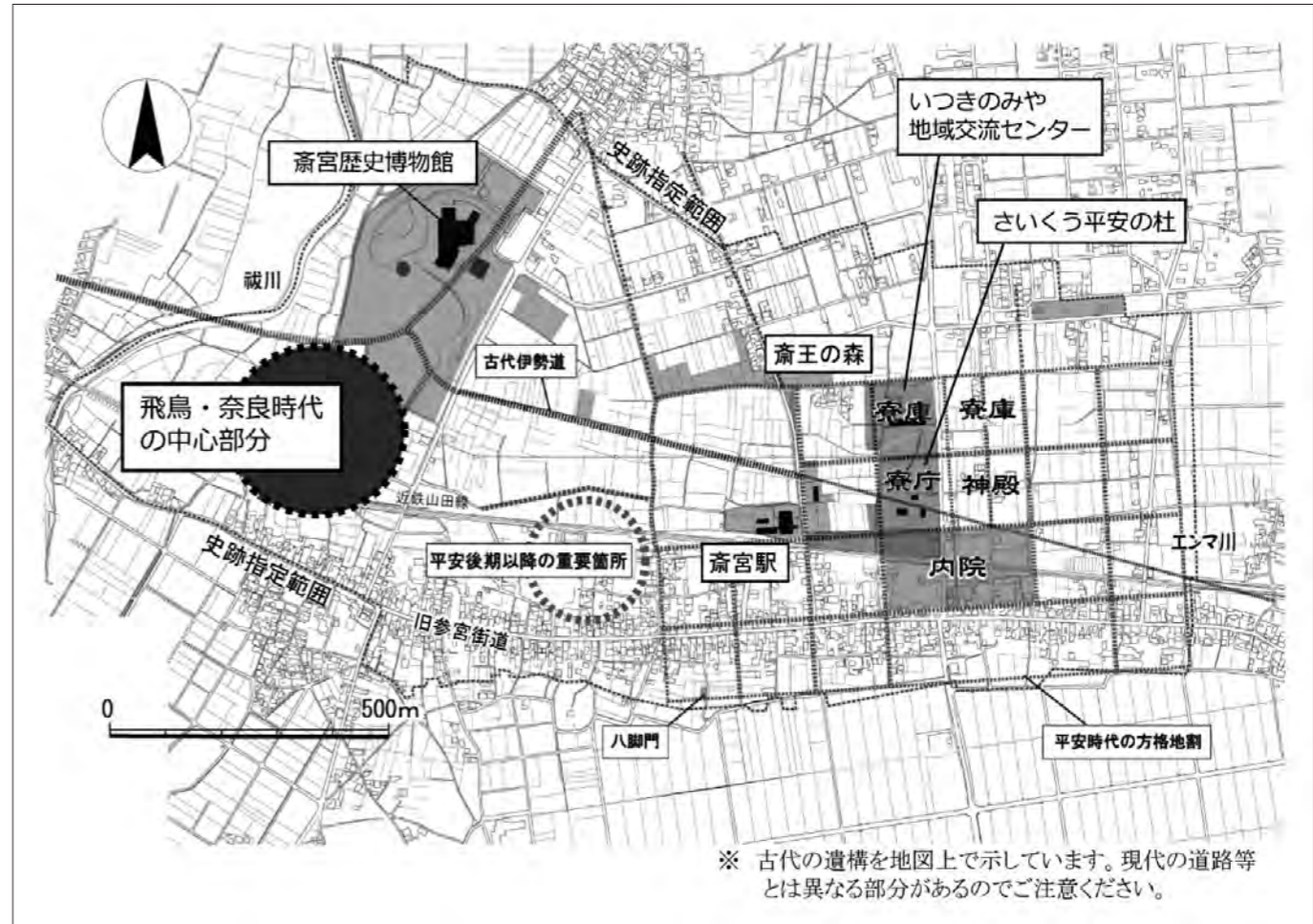


写真2 飛鳥時代の区画コーナー部（東から）



第1図 史跡齋宮跡全体図

※ 古代の遺構を地図上で示しています。現代の道路等とは異なる部分があるのでご注意ください。



は、盤ばん双六そうろく、貝覆かいおおい、小桂こくわいの簡易試着がおすすめです。このほかお香のもととなるさまざまな原材料の匂いを聞いてみるのも一興ではないでしょうか。

中庭では、蹴鞠けまりや毬杖きつちようというゲートボールに似た古代の遊び体験ができるほか、浅香を履いて歩いてみたりできま

近鉄斎宮駅を下車して、すぐ北側にみえる木造の大型建物。これが、「寝殿造」と呼ばれる貴族の邸宅を模して建てられた「いつきのみや歴史体験館」です。この建物は平成十一年秋に開館して今年で二十年目、つまり成人式を迎えます。

この施設では、斎宮が最も栄えた平安時代にスボットを当て、その時代を生きた斎王をはじめとする王朝人の生活や文化に触れ、さまざまな体験ができます。博物館や資料館ではなく、歴史体験館という名称が付けられたのは、そのためです。だから自由に展示物に触れ、それらを使って体験してみてください。そのほとんどが無料でできるのも魅力的ですよ。

さて、入口を入って最初に目につくのが、復元された「葱華輿」と呼ばれる輿こし。これは、斎王が都から斎宮にやって来る時に使われた乗物で、斎王のほか天皇・皇后しか乗ることが許されなかった特別な輿です。ぜひ、斎王になったつもりで乗って乗り心地をお試し下さい。

もっと平安貴族の日常を体験してみたい人に

ところで体験館の一番人気は、平安装束試着体験(有料・予約制)です。色の組合せが美しい十二単や厳かな直衣のほか、子供用としての細長・汗衫・水干などを、専門のスタッフにより、解説を交えながら着付けてもらうことができます。さらに、本格的なヘアメイクで貴族に変身

を希望される方には、「平安貴族になりきり体験」という特別なプランもあります。当時の婚礼儀式の一部を体験する婚礼プラン(十一万)とプロカメラマンによる撮影重視のフォトプラン(八万)があり、結婚の前撮りとか節目の記念日などに利用されています。

もうひとつ見逃せないのが、体験館ならではのイベントとして毎年実施される「いつきのみや観月会(九月)」と「追儺のまつり(十二月)」です。いずれも宮中の儀式に則り再現されたもので、特に観月会は三千本のロウソクの灯りを背景として、中秋の名月のもと繰り広げられる雅楽演奏や舞は、私たちが往時の月見の宴に誘ってくれます。ほかにも、春、夏、秋、冬の季節ごとに行われ

ていた年中行事をベースとして、三月三日の上巳じようの節句、五月五日の端午の節会、七月七日の七夕祭ちようようり、九月九日の重陽の節句、正月など、節目の諸行事に因むグッズや和歌を展示して、来館者に季節感を提示しています。



なお、予約が必要な有料体験には、機織り、草木染め、土器づくり、練り香づくり、古代米づくり、糞細工づくりのほか、予約なしでできる夏休みの一日フリー体験として合貝づくり・王朝人形づくり・絵巻物づくりなどがあります。

また、無料かつ講座と体験をセットにしたお得な講座 With 体験(全5回シリーズ)も人気があります。

このようにいつきのみや歴史体験館では、平安文化に触れることのできるあらゆる体験プログラムを開発・提示していますので、王朝人になった気分で、色々な場面でインスタ映えする写真を自由にお撮りいただけます。

せちがらい現代社会を離れて、時がまったりと流れていく平安時代の仮想空間に一度、身を置いてみてはいかがでしょう。

いつきのみや歴史体験館!

いつきのみや歴史体験館

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日、年末年始12/29~1/3)

管理:公益財団法人 国史跡斎宮跡保存協会

住所:〒515-0321 三重県多気郡和明町斎宮3046-25

TEL:0596-52-3890 FAX:0596-52-7089

ホームページ <http://www.itukinomiya.jp/>

E-mail info@itukinomiya.jp



★伊勢シンフォニックバンド

私たち「伊勢シンフォニックバンド」は、昭和50年三重国体を契機に結成され、今年で45年目を迎えた社会人の吹奏楽団です。毎年一回、シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢で開催する定期演奏会を活動の中心に、各種の文化祭や催し物に参加しています。

平成14年度には三重県文化奨励賞を受賞させていただきました。

また、平成17年度と平成30年には伊勢市一般表彰を受賞させていただきました。

毎週土曜日、伊勢市の進修小学校や伊勢市生涯学習センター(いせトピア)で練習をしています。

現在、団員は44名。高校生から定年退職した人々まで、年齢も職業も様々ですが、吹奏楽を通じて豊かな人生を送ろうとメンバー相互の明るさをモットーに、音楽を楽しんでいます。

今年9月15日(日)には、シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢にて第41回定期演奏会を行いますので、ぜひご来場ください。



齋王の伊勢滞在期間は短くて二年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という齋王もいます。

*は女王(天皇の娘以外の皇族女性)
()内は実在の確認できない齋王
○は齋宮に群行した齋王
△は齋宮に群行しなかった齋王

Table with columns: 齋王 (Emperor), 傳説の時代の齋王 (Legend of the Era of the Emperor), 天 皇 (Emperor), 西 暦 (Western Calendar), 歴史上のできごと (Historical Events). Rows include 大来(おおく), 当者(たき), 泉(いずみ), etc.

6月1日 (土曜日)

< 禊の儀 >

15:30~16:00 上園芝生広場(近鉄齋宮駅北側)
齋王は、天皇が即位すると未婚の内親王または女王の中から卜定(ぼくじょう)と呼ばれる占いの儀式で選ばれました。齋王になると宮中に定められた初齋院に入れ、翌年の秋都郊外の野々宮に移り、潔斎の日々を送られ、身を清めました。そして齋宮への出発の日の朝、齋王は野々宮を出て現在の桂川で禊ぎを行いました。



第三十七回 齋王まつり
新しい歴史のはじまり

< 前夜祭 >

17:00~21:00 齋宮歴史博物館会場
新元号「令和」を記念して、また第195次発掘調査により飛鳥時代の宮殿跡が発見されたこともふまえ初心に戻り、初代齋王を偲んで改元イベントとして「大来皇女物語」を上演します。例年の出演者紹介も含め、遙か悠久の飛鳥時代・平安時代に夢はせ歴史ロマンをご堪能ください。



6月2日 (日曜日)

< 出発式 >

13:00~13:40 さいくう平安の杜会場



出発式ではすべての女官と齋王による「献花の儀式」を行います。命婦・采女・女孺・内侍・女別当・子ども齋王の順に献花を行い、そして齋王が登場し献花・お祈りをされ旅立ちのお言葉を述べられ、群行の出発となります。

< 齋王群行 >

13:50~14:40 さいくう平安の杜~齋宮歴史博物館
齋王群行は、齋王様をはじめ大人出演者、童・童女出演者、PTA、地元自治会など総勢120名で、さいくう平安の杜~上園芝生広場~古代伊勢道を通り齋宮歴史博物館へと向かう齋王まつりの一大イベントです。

< 社頭の儀 >

14:50~15:00 齋宮歴史博物館会場
齋宮歴史博物館会場ではステージ上で伊勢国司と齋宮寮長官が齋王さまご一行をお出迎えされます。長奉送使が道中の無事を報告し、歓迎のあいさつが交わされフィナーレを迎えます。



実行委員会では 第37回齋王まつりを開催するにあたり、新元号「令和」の最初のまつりとして群行出演者そして実行委員ともに、より質の高い「齋王まつり」をめざし日々努力しております。令和元年 第37回齋王まつり「新しい歴史のはじまり」をお楽しみください。

Table with columns: 南北朝 (Nanpoku), 鎌倉 (Kamakura), 平安 (Heian), 齋王 (Emperor). Lists names, reign dates, and historical events for various emperors like 柔子, 雅子, 齊子, etc.

参考 齋宮歴史博物館総合案内

図書の紹介

私達の「齋宮」について
より多くのことを知っていただくために
「地元で読める齋宮関係図書のご紹介」

凡例
◎ふるさと会館(図書館)で貸出可 ○ふるさと会館(図書館)で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「齋宮」の入門書として	谷口布有緒文 里中満智子画「齋王ロマン 都わすれの詩」明和町◎☆ 中野イツ著「齋宮物語」明和町◎☆ 山川修司著「語り部の竹の齋王語り」近代文芸社◎☆◇ 榎村寛之著「伊勢齋宮と齋王」塙書房☆
郷土の歴史として「齋宮」を知りたい方に	奥井宏忠著「別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮」光書房○◇ 明和町教育委員会編「郷土史に見る齋王」○◇ 三重の文化財と自然を守る会編「伊勢齋王宮の歴史と保存」○◇ 「同Ⅱ」◇
齋王二行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	田畑美穂著「齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―」中日新聞本社○◇ 村井康彦監修「齋王の道」向陽書房◎☆◇
「齋王」を小説で読んでみたい方に	内田康夫著「齋王の葬列」角川書店○◇ 池田美由喜著「鷲草―大津皇子とその姉と―」新風舎◇ 郡俊子著「倭姫宮の御巡行」勢陽文芸◎◇ 々々 「伊勢齋王の恋」近代文芸社◎◇ 々々 「哀しみの伊勢大来齋王」近代文芸社◎◇
「齋宮」や「齋王」について考えてみたい方に	津田由伎子著「齋王」学生社○◇ 山中智恵子著「齋宮女御御子女王―歌と生涯―」大和書房◎◇ 々々 「齋宮志」大和書房◎◇ 々々 「続齋宮志」砂子屋書房◎◇ 々々 「齋宮筋記」砂子屋書房◎◇ 所京子著「齋王和歌文学の史的探究」国書刊行会◇ 々々 「齋王の歴史と文学」国書刊行会◇ 榎村寛之著「律令天皇制祭祀の研究」塙書房◇ 中川ただもと著「齋宮和歌の解釈と鑑賞」紫明の会☆ 服藤早苗著「歴史のなかの皇女たち」小学館☆

準備作業



第36回(30年度)齋王まつり実行委員会活動報告(敬称略)(敬称略)

1月 5日(金) 事務所開き 成人式チラシ入れ 11日(木) 役員会 14日(日) 会計監査 18日(木) 第35回齋王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展 終了(平安の杜 西脇殿) 20日(土) 役員会(総会について) 26日(金) 総会	2月 1日(木) 第3回梅まつり会議 5日(月) 日本遺産活用推進会議(事務局出席) 10日(土) 出演者募集締切 15日(木) 役員会(出演者書類選考) 20日(火) 総務・財務班会議(協賛金について) 25日(日) 子ども説明会(子ども齋王抽選 中央公民館) 27日(火) 実施班会議	3月 3日(土) 梅まつり(齋宮歴史博物館にて)(齋王役 中前 業平役 中保) 6日(火) 役員会(選考会について) 11日(日) 配役選考会(いつきのみや歴史体験館) 14日(水) 三重県beyond2020プログラム説明会 16日(金) 第4回梅まつり会議 齋王取材 夕刊三重	4月 5日(木) 齋王取材 夕刊三重 9日(月) リーフレット・パンフレット校正会議 12日(木) 齋宮跡課との打ち合わせ 18日(水) 齋王市会議 19日(木) 役員会・群行班会議 20日(金) リーフレット回収(明和町全戸配布) 24日(火) 自治会長会議(代表出席) 25日(水) 竹あかり 川淵さん打ち合わせ 27日(金) 第1回全体会議	5月 6日(日) 作業(竹きり のぼり立て準備 看板出し ステージ製作準備) 9日(水) レイルロード打ち合わせ(代表・副代表) 10日(木) 皇學館大学雅楽部打ち合わせ 11日(木) 新司会 打ち合わせ 13日(日) 出演者説明会・リハーサル・ステージ製作・大道具製作 17日(木) アトラクション会議 18日(金) 中勢警備と打ち合わせ 20日(日) 午前 のぼり立て/午後 子ども出演者説明会リハーサル・ステージ組み立て 22日(火) 知事表敬訪問 23日(水) 三重テレビ「とってモクドキ」齋王(中保)出演 24日(木) 着付班 衣裳修理 25日(金) 最終全体会議 27日(日) 最終ステージ作り 依頼出演者説明会(代表・副代表・着付会場班長・事務局) 着付班 衣裳準備	6月 1日(金) ステージライト合わせ(齋王・前齋王) 2日(土) 前夜祭 3日(日) 齋王まつり 10日(日) 片付け・反省・打上 12日(火) 紀伊半島知事会議齋王出演 打ち合わせ(博物館にて) 14日(木) 衣裳片付け 22日(金) 日本遺産活用推進会議(代表出席) 7月 5日(木) 紀伊半島知事会議(齋王お出迎え 中保)役員会(反省会) 13日(金) フォトコンテスト応募締め切り 26日(木) フォトコン1次審査 31日(火) 役員会(フォトコンテスト入選・入賞作品選考)応募者68名応募作品130点 8月31日(金) 第36回齋王まつりフォトコンテスト表彰式について記者クラブ発表 9月11日(日) 第36回齋王まつりフォトコンテスト表彰式 第36回齋王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展(齋宮歴史博物館にて10月2日まで) 14日(金) 観月会 衣裳準備 20日(木) 役員会(臨時総会について) 23日(日) いつきのみや観月会(齋王役 中保 女官役 北岡) 28日(金) 臨時総会	10月 2日(火) フォトコン写真展終了・撤収 11日(木) 伊藤オフィス来所(次年度司会について) 18日(木) 衣裳片付け・修理 役員会(37回について)	11月 1日(木) 役員会(37回について・古道まつりについて) 7日(水) 特別ゲスト(伊勢シンフォニックバンド)打ち合わせ 9日(金) 古道まつり衣裳準備 11日(日) 古道まつり 22日(木) 衣裳片付け・修理	12月 1日(木) 第37回齋王まつり出演者 募集開始 6日(木) 役員会 7日(金) 日本遺産協議会会議(代表出席) 17日(月) FM三重「出演者募集について」事務局 25日(火) 事務所大掃除 28日(金) 事務所仕事納め
--	--	---	---	--	---	--	--	---

第37回(平成31年度)齋王まつり実行委員会組織体制(敬称略・順不同)◎班長 ○副班長

本部	代表 森田 均 副代表 東谷 泰明 企画 森下 清 事務局 山中いずみ	名誉会長(町長) 世古口 哲哉 顧問 木戸口眞澄 西場信行 浜井初男 上村一弥 北岡 泰 西井 正 辻 丈昭 森下 清 山川充造 長岡成貢
会計監事	徳田 均 久世 晃	相談役 辻 孝雄 森島啓之 橋本久雄 西川道子 渡邊幸宏 田中 貢 新田一子
総務班	総務の実施 協賛金の計画 グッズ販売・スタンプラ-等 齋王市の実施 のぼり・看板計画実施 出発式・観会場の片付け	◎土井祐治 ○田端正俊 森島啓之 乾 健郎 中谷優太 ○市野秀世 田中真司 奥山幸洋 世古口典剛 竹内克巳 田中 貢 橋本久雄 大西俊次郎 小林順一 樋口文隆 下村幸一
着付会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎森 菜津子 ○北川和樹 ○江 京子 石田豊喜 澤 恒一 中瀬正実
着付班	着付け準備と後片付け	◎西宮幸代 ○安井澄代 夏井ちはる 新谷千恵子 直井佳代 ○衣斐喜代美 八田明美 森 洋子 後藤佳江 ○菊矢照子 富山正美 中川啓子 高杉恵子 ○北山良子 森下昌子 加藤早和美 村谷友香里 田中政子 西川美代子 寺西照美
実施	まつり会場班 前夜祭の実施 フラクションの実施 社頭の儀の実施 群行班 群行の実施 出発式の実施 観の儀の実施 社頭の儀の実施 舞台設営班 舞台の設営及び片付け	◎竹内和持 ○笛川浩 伊串金市 和佐田照夫 ◎野上但治 ○早川潤一 ○丸山浩紀 中島 宏 石田真也 前田 航 ◎東谷泰介 ○鈴木健司 乾 秀治 辻 崇宏 岩上遼平 ○北村哲也 伊藤佳史 中井啓悟 北川修平 大和谷勇太 ○石田藤生 中川裕正 濱口裕太 ○永島せい子 長谷川新 ◎関宮辰典 岩本温行 森川高広 仲 勇人
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎山内 理 三浦知子 ◎秋山修一 ※作業は実行委員 全員で行う

群行衣裳



長奉送使【ちょうぶそうし】



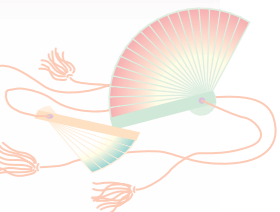
監送使ともいう。齋王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら



れ、貞観・延喜式制に継承されているが、その後次第に増員され、長元八年（二〇三五）の『看督長見不注進状』（『平遣』五二九～三七）では左右合わせて十五人を数える。獄直や犯罪の捜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにされる一方で、恐れられもした。その武力は悪鬼魔神を摺伏するという信仰を生み、『徒然草』二〇三には主上御惱の時、五条の天神に看督長の鞆をかけることが見え、『神道名目類聚抄』には守門の神を看督長と称したとある。

齋宮十二司官人【さいくうじゅうにしかんじん】

齋宮寮に属して十二の仕事をする司で勤務する官人

駕輿丁【かちよう】



齋王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。

1. 冠
2. 綾
3. 太刀



- 1
- 2
- 3

齋王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは齋宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する齋王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といえます。単衣の上に桂を重ね、打衣、表着の上にはベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、桂、単となっています。唐衣は衿、衿合わせがなく、上からはおります。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の衿仕立てです。打衣は碇で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。桂は、內衣の意味で、垂領、広袖の衿仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は桂と同形ですが、衿、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



1. 垂髪
2. 唐衣
3. 表着
4. 打衣
5. 衣（桂）（枚数を重ねている）
6. 単
7. 長袴
8. 裳（全体）
9. 裳の小腰
10. 裳の引腰
11. 櫛扇（相扇）
12. 帖紙
13. 日陰の糸（玉かずら）

※齋王が付けていたかどうかは定かではありません。



内侍または命婦【ないしまたはみょうぶ】



齋宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【によべつとう】



内侍や官旨が、齋王の住むエリアで公的性質をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、齋王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではなにかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、齋宮には、齋王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺【にようじゆ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、齋宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で齋宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が齋宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということとはなかったようです。



齋王フォトコンテスト

齋王賞



「齋王の誇りを胸に」 大台町 秋田 幸男

明和町長賞



「新たななる決意」 明和町 野中晴生

明和町教育長賞



「群行出発」 松阪市 阿部道男

明和町議会議長賞



「快晴の出発式」 津市 木村 守

齋宮歴史博物館館長賞



「御禊」 志摩市 笹山 安一

特別賞



「慈愛」 津市 川口瑞貴

特別賞



「菖蒲色に包まれて」 大台町 小椋幸志

特別賞



「舞楽奉納」 四日市市 酒井 早苗

特別賞



「齋王群行」 志摩市 浜口陽彦

特別賞



「水無月の旅立ち」 伊勢市 岡 啓一

齋王まつりフォトコンテスト作品募集

◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

◆応募締め切り

・令和元年7月12日(金)当日消印有効

(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

◆応募方法

・応募用紙を作品裏面に貼付、郵送または齋王まつり事務局受付。

◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人2点以内(未発表の作品)に限ります。

・応募用紙の各項目に楷書で記入し、題名・お名前にはかならずフリガナをつけてください。

(複数応募の場合はコピーしてください。)

・入賞、入選作品については、あらかじめデータをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

・応募作品のご返却はいたしません。

◆賞

・入賞は、10賞(齋王賞ほか)、入選は10作品

◆選考方法

・作品は齋王まつり実行委員会にて選考いたします。

◆発表

・HPにて発表いたします。

・入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

◆応募先

齋王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先

〒515-1032 三重県多気郡明和町齋宮2811番地

齋王まつり実行委員会事務局

電話 059615210054



第34代 齋王役
中保 友里

齋王役を務めて

明和町町政施行60周年、国史跡齋宮跡登録40周年、そして平成最後の節目のたいせつな年に齋王役を拝命しました。多くの皆さま方のおかげをもちまして一年間のお役目を無事に果たせましたことを心より御礼申し上げます。

昨年の齋王まつりは両日とも、サブタイトル「千年の風 蒼い空」のとおり陽気でした。清々しいそよ風と快く晴れた空のもと、葱華輦の内より眺める景色は、情緒豊かな美しさに満ちており、このうえない喜びを感じました。

過去最高の来場者数とも言われる多くの皆さま方と笑顔を交わし合えましたことは忘れ得ない大切な思い出となっております。

齋王役としての数あるすべての行事が晴天の穏やかな日和となり、この仕儀は、かつての齋王様方のお心寄せであったかのように感じています。お役に相応しい気品や知性、気構えを備えたいと努めてまいりましたので、報われたようにも思えました。

そして、歴史のうえで齋王制度と同じように、平成の御代とともに齋王役を終えることとなり、万感の思いを抱いております。今後も励んでまいりたいと決意を新たにいたす所存でございます。

日本遺産・齋宮の地で行われる齋王まつりの魅力は、第一回から綿々と続く有志の方々のご尽力の賜物と、尊敬の念は深まるばかりです。

ご関係の皆さま、ご来場の皆さまの幾久しいご清栄を心よりお祈り申し上げます。



子ども齋王
西村まなみ

子ども齋王を務めて

私は千年以上前から続いている「齋王」さんのおまつりで、子ども齋王として参加させてもらえて、とてもうれしかったです。

齋王さんとか、女別当さんたちに優しくしてもらいました。

小町のみなさんが、私に「体調大丈夫？」と言ってくれたり、とても親切にしてくださいまして、ありがとございます。



葱華輦復元模型(齋宮歴史博物館蔵)

新しい歴史のはじまり

齋王まつり実行委員会代表 森田 均

昨年の第36回齋王まつりが皆様の御協力でも無事開催出来ました事にあらためて心よりお礼申し上げます。

さて、このほど元号が「平成」より「令和」に改元となりました。万葉集からの引用にて日本人が明日への希望を咲かせる事ができる国でありますようにという意味だそうです。

そして、第37回齋王まつりは新元号最初の記念すべきまつりとなります。

サブタイトルは、令和元年の開催にちなみ「新しい歴史のはじまり」としました。又、齋宮跡遺跡においては初代齋王とされる大来皇女の齋王就任に伴い造営されたと思われる宮殿跡も発掘されております。

大来皇女もまた万葉集にゆかりがあり、新元号との縁を感じずにはいられません。今後の調査に期待していきたいと思います。

まつりの内容におきましても前夜祭にて大来皇女を偲び、その物語の一節を再現します。また、前回好評でありましたステージでの竹あかりの演出も予定しております。

2日(日)の本祭では出発式、群行、社頭の儀と優美な時間を楽しんでいただきたいと思います。

今年も御来場者すべての皆様が御満足していただけるよう実行委員一同努力してまいりますので、今後とも皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。



主催／齋王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町議会、明和町教育委員会、明和町観光協会、明和町商工会、齋宮歴史博物館、(公財)国史跡齋宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会、中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、皇學館大学
協力◎(有)レイルロード、北村音響
問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274 <http://saioh.jp> 定価100円